

キャデラックの風を感じる。

Caddy is Pride



ヘッドライトがマスクされたCTSはD3のデモカーで、ドライバーは社長。そしてカップルで参加する強者もいる。ちなみに彼氏はシリーズチャンピオン。ユーロスポーツも参加しているが、アメ車特有の固太い排気音にスーパーチャージャーの音を響かせて前を譲らない。変わっているのが、積車に乗せて登場というよりは、トレーラーをヒッチで引っ張るというスタイルで会場入りする姿を多く目にした。

Cadillac Challenge Final @Fontana CA

2014 Cadillac Challenge Series Winners
Class C1 - Brian Fuller
Class C2 - Matt Martin
Class C3 - Bob Michaels



キャデラックチャレンジとは1周のラップタイムで順位を決めるその名の通りキャデラックのレースである。レースといえばコンマ1秒を競い合う熾烈な戦いを想像する。しかしこのレースなんだからちょっと違う。走行車両はクラス分けがきちんとされ、ノーマルでもSタイヤに履き替えて十分楽しめるレースなのだ。一番の大きな違いは、タイムアタック時に助手席に奥さんや彼女を乗せてタイムアタックするというアットホ



ームさを持っているというところ。参加者は全員、本当の意味でレースを楽しんでいるのだ。
現在トーヨータイヤがプロデュースし、GMなどビッグメーカーも参加するこのイベントも始めた当初は、4〜6台位のエントリーだったという。しかし今回カルフォルニア州フォンタナで行われた最終戦には18台のエントリーがあったというのだ。そして参加者の中でも一際目を引くのがマシンのボディに輝く

「D3」の文字。D3 Cadillacといういわばキャデラック専用のチューナーで、キャデラックの魅力を最大限に引き出しているメーカーなのだ。アメリカにおいてはGMパフォーマンスのライセンスパーツも手がけている。そんなD3は社長自らがこのレースに参戦し、パーツ開発のデータをとっているということだ。
キャデラックはアメリカ人の誇りでありパートナーでもある、そんなことを感じさせるレースであった。』